



合同会社 龍神乃里 代表 ^{むら かみ まさ あき} 村上雅昭さん

Q：塩づくりを始められたきっかけを教えてください。

A：恩師とともに「志ある若者の力になりたい」という思いを抱いたことが、塩づくりを始めた原点です。2017年に挑戦をスタートし、失敗と試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ形にしてきました。

Q：工房が完成したのは2019年だそうですね。

A：はい。研究を重ねること2年以上、ようやく納得のいく塩ができあがり、2019年3月に塩工房が完成しました。同年7月には「龍神乃鹽^{りゅうしんのしお}」の販売を始めました。



▲ 2024年瀬戸内のダイヤ開発当時のメンバー

Q：商品は今や全国でも知られる存在になっていますね。

A：皆さまのおかげで、発売から7年経った今では広く認知していただけるようになりました。昨年は「ニッポンおみやげアワード」で2部門の全国表彰もいただき、大変励みになっています。

Q：高校生とのプロジェクトも話題になりました。

A：2024年、周防大島高校の生徒と取り組んだ「夢塩プロジェクト」では、龍神乃鹽を使った飴「瀬戸内のダイヤ」を開発しました。今では年間1万個以上を売り上げる人気商品となり、東京スカイツリー・ソラマチでも販売されています。参加した高校生たちは現在大学等で活躍しており、今年は中心メンバーへ感謝状と奨励金を贈りました。



▲ 人気の「瀬戸内のダイヤ」



▲ 中心メンバーへの感謝状と未来への奨励金を贈りました。

Q：今後の目標を教えてください。

A：龍神乃鹽の研究を続けることはもちろん、市民大学「龍神大学校」の講演会や勉強会を開催し、より多くの若者の力になれる活動を広げていきたいと考えています。これからも地域に貢献できるよう取り組んでまいります。

表紙のこと

今回取材させていただきました龍神乃里代表の村上雅昭さんは、ものづくりの技術者というよりも「志を持った教育者」であり、「地域の未来を育てる人」だと感じました。塩づくりを始めた理由が、単なる商品開発ではなく「若者の力になりたい」という思いから始まっている点に、村上さんの人柄がよく表れています。

お忙しい中、ご対応いただきましてありがとうございました。

表紙・裏表紙担当：岡 崎 裕 一

